HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特集II　シンポジウム : 若者問題が問う教育学研究の課題
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 103, 179-180
Issue Date	2007-12-29
DOI	10.14943/b.edu.103.179
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/30342
Type	bulletin (article)
File Information	103_179-180.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

特集Ⅱ　シンポジウム：若者問題が問う教育学研究の課題

SPECIAL TOPIC Ⅱ: SYMPOSIUM
Challenge of Educational Studies in Terms of “Youth Issue”

2006年12月24日に北海道大学大学院教育学研究科において、「若者問題」をめぐるシンポジウムが開催された。その概要は以下のとおりである。

＜開催趣旨＞

ニート問題に象徴されるような現代の「若者問題」は、これまでの「人が育つ・人を育てるシステム」のありかたについて、私たちに再考を迫っているように思われます。仮に、転換期にある現代社会の危機が若者を含めた私たちの人格の危機として現れているのだとすれば、これからの教育および教育学は何を課題とし、どのようにそれに迫ればいいのでしょうか。

こうした課題へ迫る第一歩として、当研究科では下記のようなシンポジウムを開催することにしました。ここから新たな「発達・学習のための支援ネットワーク」を見通すことができればと願っています。

＜内容＞

北海道における若者支援政策の展開と課題 ～参加型シティズンシップの視点から～	横井　敏郎（北海道大学）
若者自立塾の実態と課題	安宅　仁人（北海道大学大学院）
若者支援実践が提起する教育学研究の課題	宮崎　隆志（北海道大学）
現代社会における大人への移行の諸問題	白井　利明（大阪教育大学）
自立概念の転換と教育学研究の課題	平塚　眞樹（法政大学）
コメンテーター	坂元　忠芳（東京都立大学名誉教授）
司会	間宮正幸（北海道大学）

当日は60名を超える方々にご参加頂き、熱気あふれるシンポジウムになった。上記の諸報告のうち、横井報告・宮崎報告については、『発達学習支援ネットワーク研究』№7、北海道大学大学院教育学研究科、2007年に論文として掲載されている。また、平塚報告については、ほぼ同様の内容が「移行システムの分解過程における能力観の転換と社会関係資本」、『教育学研究』第73巻第4号、日本教育学会、2006年として発表されている。

本紀要に掲載したのは、それらを除いた諸報告および坂元コメントである。シンポジウムの内容を一括して提示できないのは残念であるが、併せて以上の諸論稿もご参照頂ければ幸いである。

討議では、現代社会における「若者問題」をどのようにとらえるのか、社会関係資本概念が「若者問題」や教育学研究にとって有する意味、物象化概念の現代的な展開の意義と可能性などの論点が浮上した。グローバリゼーションが展開し、労働の意味転換を基軸にしながら社会構造が急激に転換する下で、現代の課題に対応しうる教育実践の成立条件をめぐっての理論的模索が為されたと言える。私たちは、今後もこの課題を継続的に探求していく所存である。

（宮﨑隆志：北海道大学大学院教育学研究院・教授）